発行／2026年７月10日　発行者／日本弁護士政治連盟
〒100-0013東京都千代田区霞が関1－1－3
弁護士会館15階　TEL 03-3580-9975

弁政連ニュースNEWS

政治を動かす・未来を動かす

www.benseiren.jp
No.84 JUL 2026
2026年７月

2026年度定期総会・理事会を開催

2026年５月12日、東京の弁護士会館講堂クレオと全国各地のZoomによる参加者を結んで、2026年度定期総会と理事会が開催されました。会場には50名ほどが参集し、Zoomによる参加者は40名でした。

定期総会においては、日弁連・弁護士会の政策実現に向けて積極的な活動に取り組むことを改めて宣明する2026年度活動方針を議決したほか、本部・支部の活動報告を行いました。

続いて開催された理事会においては、2025年度の決算報告及び2026年度予算を議決したほか、常務理事２名の追加選任が決議されました。

（幹事長　道 あゆみ）

2026年度活動方針

本年度、日本弁護士政治連盟（弁政連）は、社会・経済そして政治の大きな岐路に立っていることを認識し、また自然災害のリスクを見据えながら、日弁連・弁護士会の政策実現を図るため、以下の諸活動に重点的に取り組みます。

1　日本弁護士連合会、弁護士会連合会、弁護士会と国会議員等の政治家とのかけ橋となり、日弁連等とともに偏りのない広い視野から立法府･行政府に働き掛けて、政策課題の実現を目指します。

2　国政選挙に際しては、前項の方針に従って、適正な選考による推薦・支援活動を行います。

3　国政選挙以外の場面においても、第１項の方針に従って、ときの日本弁護士連合会の重要な政策及び諸活動に、深い理解と協力が得られると認められる国会議員等への対応を強化します。

4　支部活動においては、首長や地方議会、自治体との連携を強化し、弁護士会と共に地域の実情に沿った活動を充実させ、また本部と支部間の情報共有と連携並びに支部相互間の交流を推進します。

5　大規模災害、パンデミック、その他国民生活が脅かされるような事態に対して、日本弁護士連合会・弁護士会連合会・弁護士会と国会議員、地方自治体の議員等が連携して国民生活を守るための活動を進められるように、両者のかけ橋となります。

6　弁護士が、従前にも増して、政治・行政の場で活躍できるように、国会議員・自治体の首長及び議員等への立候補の支援や人材の育成、政策秘書や行政機関等への就任促進等を進めていきます。

7　会内外に対して、弁政連に対する理解をより深めるために、広報活動を充実させます

8　弁政連における活動の活性化と広報の充実化を踏まえて、より一層の組織の強化を図り、財政的基盤を拡充することにより、弁政連の存在感を示すとともに、その発言力を高めていきます。

政党懇談会

2026年５月、６月に、１)自由民主党、２)日本維新の会、３)中道改革連合・立憲民主党・公明党（３党合同)、４)国民民主党、５)日本共産党との懇談会を開催しました。

日弁連からは、各懇談会を通じて、次のテーマについて説明、要請がなされました。

(１) 再審法改正について

(２) 地域の活性化と法的サービスについて

自由民主党（2026年５月14日）

2026年５月14日、自由民主党との懇談会が開催された。自由民主党からは、小林鷹之 党政調会長、柴山昌彦 党司法制度調査会顧問をはじめ12名の国会議員が出席された。日弁連・弁政連からは、松田純一 会長、小林元治 理事長をはじめ弁護士35名が出席した。日弁連・弁政連からは、まず検察官抗告を原則禁止とする刑訴法改正案の合同会議での了承につき謝意を示した上で引き続き国会審議での協力を求め、また地方部を支える法的サービスの維持拡充に関する日弁連の取組を説明した上で協力を求めた。自由民主党からは、冤罪防止と真実発見を両立する刑事司法制度改革への意気込み、憲法審査会の定期開催、地方部を含む国全体を俯瞰する視座、ＡＩ時代の弁護士業務など幅広いテーマに関する活発な発言が行われた。

（企画委員会副委員長　伊藤 蔵人）

日本維新の会（５月26日）

2026年５月26日、日本維新の会との朝食懇談会が開催され、日本維新の会からは藤田文武 共同代表、中司宏 幹事長をはじめ10名の国会議員が出席した。冒頭挨拶に続き、鈴木治一 日弁連副会長及び衆議院法務委員会で参考人として意見陳述する鴨志田祐美 弁護士から、刑事司法を国民の手に取り戻す熱い信念のこもった再審法の説明があった。次に、清水智 日弁連副会長から、地域の活性化と法的サービスの充実について提言があった。その後、再審法改正の議論をきっかけに広く冤罪をなくす対策を考えるべきという意見や、大阪のように統治の仕組みを変えることで地域を成長させ、経済を循環させることができるという意見が出されるなど、与党の一翼として国を動かす維新スピリッツあふれる活発な意見交換がなされた。

（企画委員会副委員長　佐久間 玄任）

国民民主党（６月11日）

2026年６月11日、国民民主党との朝食懇談会が開催された。国民民主党からは玉木雄一郎 代表，古川元久 代表代行をはじめ，20名の国会議員が出席され、日弁連及び弁政連からは、松田純一 会長、小林元治 理事長をはじめ弁護士34名が出席した。

まず、日弁連から、再審法改正と地域活性化と法的サービスに関する説明･報告がなされた。再審法改正においては衆議院での議論が大詰めを迎えており、「証拠開示」を広く認めさせることが冤罪防止に必要だとの認識は、国民民主党側と弁護士側が共通だということが改めて確認できた。また地域活性化についても、法曹がいない町での法律相談が必要だと議員側から要請があった。

（企画委員会副委員長　武山 茂樹）

中道改革連合・立憲民主党・公明党（５月28日）

2026年５月28日、中道改革連合・立憲民主党・公明党との朝食懇談会が開催された。中道改革連合から小川淳也 代表をはじめ８名、立憲民主党から水岡俊一 代表をはじめ８名、公明党から竹谷とし子 代表をはじめ７名が出席した。冒頭挨拶で小林理事長は、野党としての期待や役割を述べ、続いて、鈴木治一 日弁連副会長及び衆議院法務委員会で参考人意見陳述する鴨志田祐美弁護士から、野党議員に対する期待を込めた再審法の説明がされた。次に、清水智 日弁連副会長から、地域の活性化と法的サービスの充実について提言があった。そのほか、国家の立場からではなく、国民の利益や個人の尊厳を起点に議論をしたいという意見のほか、地域の司法ニーズにつき自治体からも意見を聴くべきだという意見など、野党として期待される役割に応えるべく充実した意見交換の場となった。

（企画委員会副委員長　佐久間 玄任）

日本共産党（５月27日）

2026年５月27日、日本共産党との朝食懇談会が開催された。日本共産党から、田村智子 委員長をはじめ10名の国会議員が出席された。日弁連及び弁政連からは、松田純一 会長、小林元治 理事長をはじめ31名が出席した。

双方代表の挨拶の言葉があった後、日本共産党の衆議院議員の先生方からご挨拶をいただいた。その後、日弁連側から再審法改正に向けた議論状況について説明があり、あるべき改正の実現に向けて改めての協力要請があった。また、地域の活性化を支える日弁連の取組とこれまでの成果について説明があった。日本共産党の参議院議員の先生方からは、再審法改正に関する問題のほか、憲法改正に関する問題、個人情報保護法改正に関する問題、スパイ防止法に関する問題、被災者支援の問題などについて多くのご意見が出され、また近時の国会における様々な状況についてお話がされた。

（企画委員会委員長代行　豊田 賢治）

弁護士出身議員に聞く

丸尾　なつ子　議員

衆議院・神奈川１区（自由民主党）
神奈川県弁護士会会員

（インタビュアー　広報委員会委員　安藤 圭輔）

Q. 法曹から国会議員を目指したきっかけを教えてください

私は昔から政治家を志していたわけではないんです。
大学卒業後は経済産業省の官僚で、経済が専門分野でした。

そこからロースクールに入り、弁護士に転じたのですが、これは法律と経済の両方が分かる人材になりたいという思いからでした。

弁護士になった後も、行政庁に近しい分野で仕事をしていました。また、弁政連に所属し、政治家との交流を経て政治を身近に感じるようになったんです。

ただ、弁護士として政策に携わるには限界があると感じ、徐々に政治家を志すようになりました。

Q. まだ小さなお子さんがいらっしゃる丸尾先生ですが、子育てをしながらの議員活動、大変ですよね？

とても大変です。

けれど、子どもとの時間はとても大切なので、お弁当作りや保育園の送り等、可能な限り子育てに関わるようにしています。下の子はいま４歳でぐずることもありますが、地元のイベントで連れていけそうなものは連れて行って、地元の皆さんに可愛がってもらっています(笑)。

また、子育て現役世代でも議員活動が出来る、というロールモデルになりたいという思いもあります。

Q. 議員活動で法曹経験が活きる場面はありますか？

はい、再審法の議論などでは、弁護士としての知識、経験が役立ちました。

議員も政策立案等のため交渉することがありますが、弁護士としての交渉スキルも役立ちますね。

Q. 実現したい政策課題を教えてください

大きな目標としては経済を強くすることです。

いま私は環境委員会と厚生労働委員会の所属ですが、こうした分野について学ぶことで経済成長に繋げられる部分もあるので、今は与えられた役割の中で、勉強を続けていきたいと思います。

Q. 弁護士や弁政連へのメッセージをお願いします

弁護士として仕事をしていて、法律の枠組みそのものがおかしいと気付くことってあると思うんです。

弁政連には、そうした声を集めてほしいです。私は、その声を、国政に届けます。

所属法律事務所の同僚でもある丸尾議員のインタビューは、終始和気あいあいとした雰囲気の中、行われました。丸尾議員には、弁護士、元経産官僚、そしてお母さんとしての知識や経験を活かし、政界で羽ばたいてほしいと思います。

（安藤 圭輔）

弁護士出身議員に聞く

松本　　泉　議員

衆議院・千葉８区（自由民主党）
元千葉県弁護士会会員

（インタビュアー　広報委員会委員長　伊井 和彦
広報委員会委員　　石井 逸郎
古平 江都子）

Q. 弁護士から政治家という新たなステージに転身された率直な思いを教えてください

2007年に経済産業省に入省し、同じ年に司法試験に合格しましたが、司法修習には行かずに、そこで13年勤めた後、弁護士法第５条に基づく日弁連の研修を経て2021年に弁護士登録をしました。元々国を良くしたいという思いがあり、官僚の立場に限界を感じて政治の世界を志しました。 弁護士としての３年半は、国選弁護を通じて生活保護を受けられている方や障害をお持ちの方など、一人ひとりのお話を伺う機会に恵まれました。自分が霞が関から見ていたものとは違う、色々な人で成り立っているという現実の世の中や社会を深く学べた貴重な期間でした。

Q. 実際の国会の場で、弁護士の経験はどう活きていますか

非常に意味があると感じています。今国会での刑事訴訟法改正案の長時間にわたる審議でも、弁政連の方からも色々教えていただきました。私自身、国選弁護等で法律を使ってきた実務経験があるからこそ、なぜ揉めているのか論点がシャープに理解できました。同僚議員にとっても、実態を知る弁護士出身議員の存在は大きいようです。

Q. 今後注力したい政策と、司法分野への思いをお聞かせください

経産省出身として、まずは経済の成長戦略です。経済を成長軌道に乗せることで、物価高や社会保障など多くの課題を解決に向かわせたいです。 また、司法分野では成年後見制度の見直しなどに注力したいです。法曹関係者でないと論点が分かりにくい分野において、実務の視点から「法の中に魂を入れていく」ことは弁護士の役割です。

Q. 弁護士と政治家の違いについて、どうお考えですか

9割は理屈で積み上げても、残りの10％、理屈や判例だけでは片付かない部分に政治の役割があります。言葉にできない思いを届け、今の法律がおかしいなら変えていく。理屈を越えるために民意を得ているのが政治家だと実感しています。弁護士から政治を目指す方がいらっしゃれば、ぜひ志を持ち続けてこの世界に来ていただきたいですね。

経済産業省の行政官を経て、議員になるという初心を形にされた松本議員。これまでに培われた経験の全てを活かして、いよいよ本舞台に躍り出られたのだという印象を持ちました。力強く、活力を感じるお声で話される議員にお目にかかり、委員一同清々しい気持ちになりました。

（古平 江都子）

宮崎大輔東京都議会議員との懇談会

企画委員会委員長代行　豊田 賢治

令和８年５月20日、昨年の東京都議会議員選挙にて港区選挙区から国民民主党公認で立候補し当選した宮崎大輔都議会議員（東京弁護士会所属）を招いて懇談会が開催された。弁政連側からは三宅弘企画委員会委員長・副理事長、上田智司東京本部本部長・副理事長、二瓶茂東京本部幹事長のほか企画委員会の委員ら複数が参加した。宮崎都議からは、政治家を志した経緯、出馬の決断、選挙運動の際の苦労などの話がされ、都議になってからの少数会派ならではの問題、政策立案や一般質問に至る流れの解説もあり、参加者は都議会における最近の現実の状況をよく知る機会となった。弁護士が都議になることの優位性も話され、もっと多くの弁護士が都議や地方議会議員になることが望ましいとの話もされた。質疑応答においては、選挙運動期間における状況や都議になってからの知事与党としての悩み、他会派との関係性などについても率直なお話がされ、都との関係性について模索を続けている参加者にとって大変参考になった。懇談会後は場所を移して会食をしながら、都政を巡る様々な話に花が咲いた。

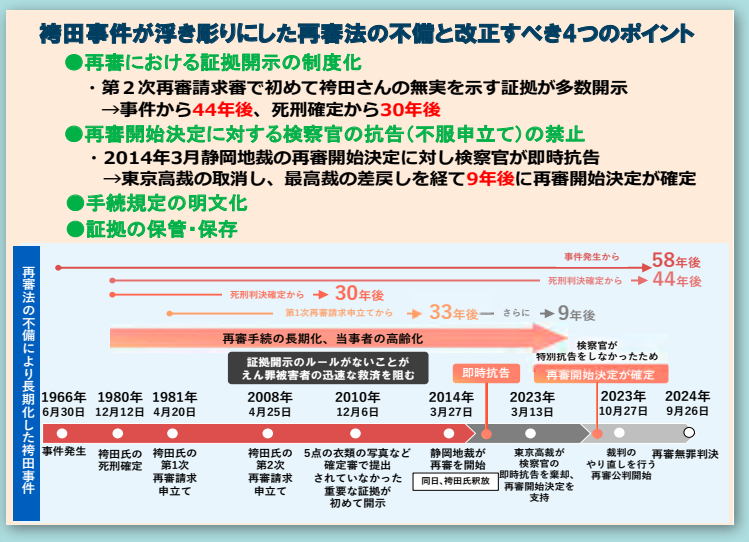
入会勧奨パンフレットをご活用ください

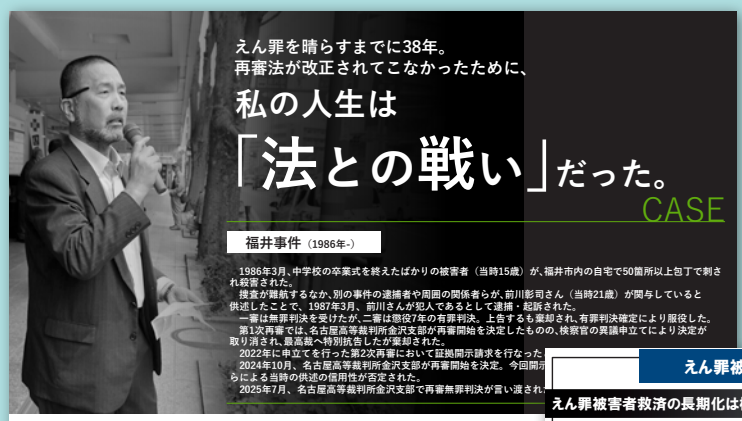
本紙80号（2025年７月号）にてご報告いたしましたが、今般、入会勧奨パンフレットを改訂し、弁政連の近時の活動で政治的成果に繋がった日弁連の７つの課題を紹介しています。

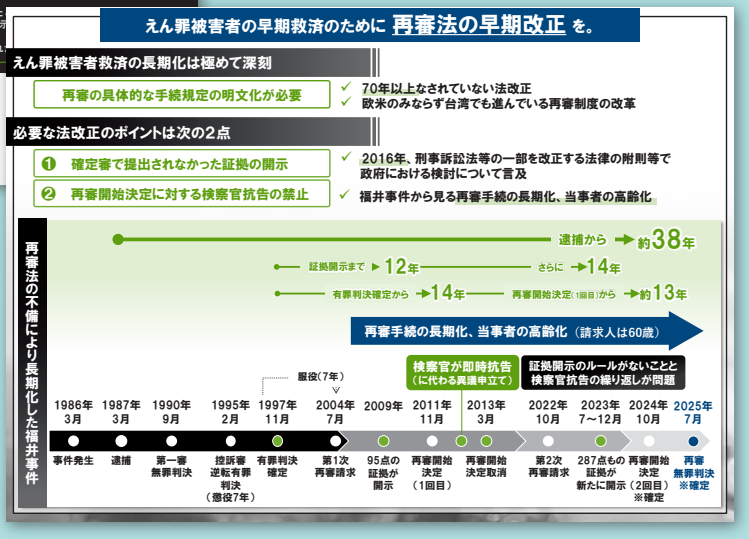
各支部におかれましては、新たに会員を獲得するために、この入会勧奨パンフレットを大いにご活用いただければ幸いです。

（組織強化委員長　神田　安積）

懇談会資料（再審法改正について）

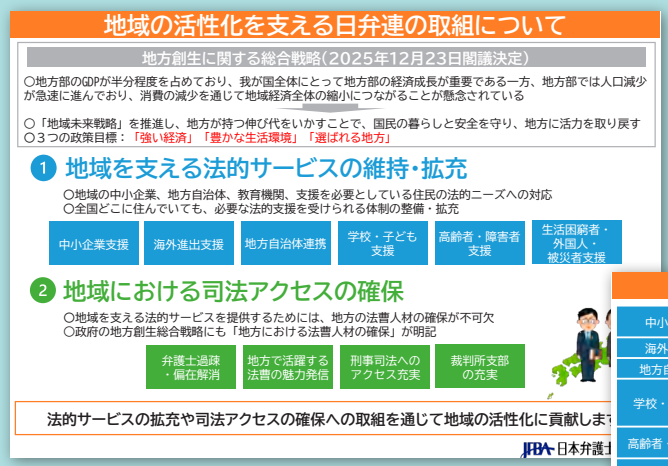






当日の説明資料は、弁政連のサイト（http://www.benseiren.jp/）「活動日誌」から御覧いただけます。

懇談会資料（地域の活性化と法的サービスについて）



当日の説明資料は、弁政連のサイト（http://www.benseiren.jp/）「活動日誌」から御覧いただけます。

本部人事

2026年４月17日に開催された常務理事会において、同日付けで本部総務委員長に市川正司副理事長を、また、本部組織強化委員長に神田安積副理事長を選任することが決定されました。

市川　正司

副理事長・常務理事・
総務委員長
第一東京弁護士会
2024年度日弁連副会長
2024年度　一弁会長

この度、総務委員長を拝命いたしました。日弁連は、選択的夫婦別姓制度創設や再審法改正などの人権に直接関わる課題、各種実体法や手続法の改善の場面で広範な役割を担っています。弁政連においても、弁護士会と各党の議員との良好で適切な関係を築き、日弁連・弁護士会の意見を理解していただく環境を作るという役割は重くなってきていると感じます。私も、職責を果たすべく全力を尽くす所存ですので、よろしくお願いいたします。

神田　安積

副理事長・常務理事・
組織強化委員長
第二東京弁護士会
2021年度日弁連副会長
2021年度　二弁会長

この度、松田純一現日弁連会長の後任として、組織強化委員長に就任いたしました神田安積（45期・第二東京）です。前任の伊藤茂昭先生、笠井直人先生そして松田先生のご尽力により、全国すべての地域において弁政連支部の設置に至りました。今後は組織強化の観点から、会員加入の促進に向けた更なる取組がいよいよ急務です。皆さまにお力添えをいただきながら全力を尽くす所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

本部・支部人事（　）内は前任者

2026年４月17日付

副理事長　佐藤 彰紘（小田 修司）
　　戸田 綾美
　　福島 正義
常務理事　高橋　　司（中井 洋恵）
理　　事　岩田 武司（二川 裕之）
　　島崎 友樹（杉崎　　茂）

新潟県支部　５月28日付

事務局長　佐々木 智之（川端 大輔）

編集後記

日弁連にとっての重要法案が今後目白押し！（いい）
毎週「豊臣兄弟！」が楽しみです！（いしい）
ダブル台風、線状降水帯…一体どうなることやら。（あんどう）
今年もまた暑くなりそうです。ご自愛を。（おがわ）
線状降水帯ようやく覚えたら今度は暑熱順化（こだいら）